

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あいほっぷ			
○保護者評価実施期間	令和7年10月15日 ~ 令和7年11月10日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	20名	(回答者数)	19名	
○従業者評価実施期間	令和7年10月15日 ~ 令和7年11月10日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6名	(回答者数)	6名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月25日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育指示書により毎月3つの具体的な目標を設定し、1対1の時間で運転や巧緻性などの課題に丁寧に取り組んでいる	「療育指示書」 ・毎回、成果や取組の様子なども記録し、月末に見直しを行っている ・年長児には、就学を見据えた支援を行い、子どもが着実に育てられる体制を取っている	家庭での様子や保護者の意向等も踏まえながら、更なる療育の充実を図る
2	担当制（基本的には3ヶ月毎に変更）の採用	「担当制」 ・基本的に3ヶ月ごとの担当制を導入し、一定期間は同じ職員が継続して関わる体制を整えている。 指示や関わりを統一できるため、子どもにとって分かりやすく安定した支援が行える。 この期間での取組みがまとまりとして見えることで達成度の把握	関係機関と連携を図り、統一した支援を行えるようにしていく
3	毎日、戸外療育を行っている	毎日のお散歩（危険回避や手をつないで歩くなど）や、定期的な公園、児童館での戸外遊びを取り入れ、地域の人との交流も図っている。	事業所近郊の地域交流を更に深めていく取組みを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園庭（運動できるスペース）がない	事業所の前が駐車場のため園庭を作ることが難しい	定期的な戸外遊びで講演や児童館に行き、身体を動かす。また、室内での体操を増やし、運動量を確保する
2	保護者参加型のイベントや保護者会が少なく、保護者同士のつながりを作る機会が不足している	日頃の支援業務や事務作業に追われ、イベント準備のための時間確保が難しく、余裕をもって取り組む体制が整いにくかった	保護者様同士が気軽に話ができる場を検討中
3	ご家庭での悩みや相談事をより安心してお話ししていただける雰囲気づくりをもっと充実させていく必要がある	日々の支援業務が中心となり、相談に特化した場の設定が十分ではなかった	・送迎時や連絡帳で家庭での様子や困りごとを尋ねる声掛けを意識的に行う ・保護者に対し、相談はいつでも歓迎である旨を明確に伝える